脳卒中の外科治療

予防と再発を防ぐ安全で確実な治療

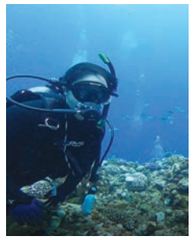
当センターでは脳出血の患者さんの場合、脳神経外科とともに手術適応の判断を行います。脳動静脈奇形や硬膜動静脈瘻など、出血源があれば再出血予防の手術を行うこともあります。くも膜下出血においては、発症すると予後不良の疾患のため、破裂しやすいと考えられる脳動脈瘤に対しては、予防的な手術を行っています。これまで開頭手術としてクリッピング術、カテーテル治療としてコイル塞栓術を行ってきましたが、最近では脳動脈瘤に手をつけずに正常血管に網目の細かなステントを留置することで、脳動脈瘤への血流を減らして治す、フローダイバーター留置術も行われるようになりました。また、脳梗塞の原因のひとつとして近年増加傾向にある内頚動脈狭窄症の治療としては、全身麻酔下に直接血管を切開してプラークを除去する内膜剥離術や、局所麻酔下に血管内治療で内腔を広げるステント留置術を行っています。脳動脈瘤も内頚動脈狭窄症も、病変の部位や性状に応じて最善の治療を選択します。脳卒中の発症や再発を予防するために、経験と実績のある医師たちがチーム一丸となって、外科手術と血管内治療を駆使して、患者さんにとって安全で確実な治療をご提供いたします。

脳神経外科 講師
池田　剛

「脳血管障害の治療を担当しています。ご紹介いただいた患者さんの不安を取り除く最善の治療を行い、地域の先生方のもとにおかえしできるよう精進してまいります。現在、単身赴任中ですが、休日は家族とゆっくり過ごすことを楽しみにしています。お酒も好きで日本酒やクラフトビールなど、いろいろと飲み比べています」

脳神経外科 助教
阿久津　善光

「患者さんに適切な治療を行うため、常に緊張感をもって自己管理の徹底に励んでいます。地域の先生方におかれましては、脳梗塞のリスク管理全般を含め、当センターまでご相談いただけましたら幸いです。多忙な毎日ですが、学生時代を過ごした街で再び暮らすことになり、合間をぬっては散策など街めぐりを楽しんでいます」



獨協医科大学病院
Dokkyo Medical University Hospital
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880
TEL:0282-86-1111(代表)
獨協医科大学病院脳卒中センター
脳神経内科外来 TEL:0282-87-2198
脳神経外科外来 TEL:0282-87-2205

脳卒中相談窓口(医療福祉相談部門内)
TEL:0282-87-2185　■受付時間:月曜日～土曜日 9:00～16:30(第3土曜日・休診日除く)

獨協医科大学 創立50周年記念事業
50周年記念事業に関するお問い合わせはこちらまで
獨協医科大学創立50周年記念事業推進室
企画広報部内
TEL:0282-87-2107

DOKKYO MEDICAL SCOPE 獨協の今を識る vol.2　2022年12月発行　発行元　獨協医科大学病院 地域連携・患者サポートセンター　TEL:0282-87-2383　Eメール:renkei@dokkyomed.ac.jp

DOKKYO MEDICAL SCOPE

— 獨協の今を識る —　vol.2

獨協医科大学病院脳卒中センターにおける診断・治療案内

脳卒中の診断・治療・相談窓口

24時間365日対応の脳卒中センター

当センターは、日本脳卒中学会認定の「一次脳卒中センター コア施設」として、急性期患者さんを24時間365日体制で受け入れ、的確な病型診断(原因診断)と急性期治療を提供しております。病型診断に苦慮している方、後遺症のコントロールなどの外来診療は脳神経内科、脳神経外科で対応。さらに日本初の設置となった「脳卒中相談窓口」では、入院患者さんやご家族はもちろん、かかりつけ患者さん以外の相談も受け付け、医療ソーシャルワーカーや医師を含めた多職種が解決までサポートしますので、安心してご利用ください。

脳神経内科 教授／
脳卒中センター センター長

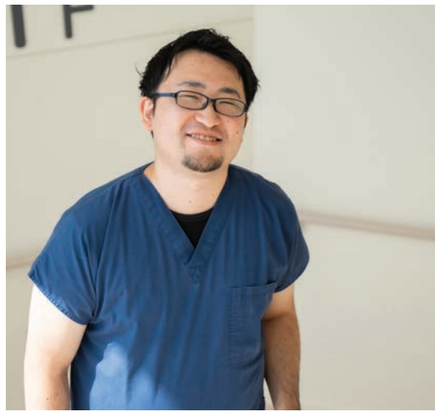
竹川　英宏

「私たち医師は急性期脳卒中の治療に加え、その後の患者さんとご家族の生活のフォローアップも含め、この病気と向き合っています。気が抜けない毎日ですが、好きな映画を観たり、2匹の愛犬とふれあったりしてリラックスを心掛けています。最近は思考の整理や体力づくりに、夜のウォーキングも始めました」

脳神経内科 講師

西平　崇人

「この治療を行える資格を持つ専門医が多いのも当院の特徴です。私たちは患者さんがよくなることを第一に考え、長期的な生活を見据えた治療方針をご提案しています。日々の楽しみは海水魚とサンゴの飼育。週末になると水族館に足を運んでは、今年生まれたばかりの子どもに熱帯魚の英才教育を行っています」



脳神経内科 助教

五十嵐　晴紀

「積極的に最先端医療を取り入れている当院は、県内全域の脳卒中患者さんの受け入れ対応が可能です。私個人としても、自分の働き方を考える以上に、患者さんを自分の家族と思い全力で治療を行っています。まもなくマイホームが完成しますが、子どももまだ小さいので、家庭と仕事を両立できる医師になりたいです」

脳神経内科 助教

飯塚　賢太郎

「さまざまな検査が発達するほど、データだけでは救えない部分もあると思います。患者さんを診ること、聞くこと、話すこと、こういった内面の部分を大切にできる医師でありたいと心掛けています。最近は子どもと遊んでばかりなので、自分の時間を確保するため早起きをして日本史、地理などを再勉強しています」

脳神経内科 助教

津久井　大介

「患者さんの治療はもちろん、ご家族の心に寄り添えるケアも必要なもの。病気への理解を深め、安心していただける丁寧な対応を日頃から心がけています。休日は妻と一緒に動画を観たり、簡単ですが料理を作って家呑みをしたりして楽しんでいます。野球もずっとやっていたので、大谷選手の活躍ぶりに喜んでいます」

超急性期の脳梗塞治療

素早い治療を実現する環境とマンパワー

脳梗塞の初期治療は、原則として脳梗塞の拡大を防ぐことと、再発を予防することにあります。脳が受けたダメージを最小限に抑えるためには、閉塞した動脈をすぐに再開通させることと、適切な治療が必要です。超急性期の治療には、遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータを用いて、唯一内科的に血栓を溶かすrt-PA静注療法と、ステントリトリーバーや吸引カテーテルを用いた機械的血栓回収療法があります。これらの治療はその適応に対して発症時間から非常に厳しい制約がありますが、リハビリテーション室を備えた脳卒中集中治療室を完備する当院には、日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医、日本脳神経血管内治療学会専門医、日本神経学会認定神経内科専門医・指導医、日本頭痛学会専門医・指導医、日本超音波医学会認定超音波専門医・指導医が勤務し、救命救急センターや脳神経外科、放射線科、メディカルスタッフと連携することで、素早く治療をすすめることができます。1人でも多くの命を救うための適切な環境と、外科的観念と内科的観念を織り交ぜ、患者さんにとって最善の治療ができるマンパワーが当院には整っています。ぜひ、私たちにおまかせいただければと思います。

病型診断のための超音波検査

高度な超音波診断による速やかな原因検索

脳卒中、特に脳梗塞の原因や病型診断には超音波検査が必要不可欠です。当センターには日本超音波医学会の超音波専門医・指導医、日本脳神経超音波学会認定検査士が勤務し、高度な超音波診断による、速やかな脳梗塞の原因検索を実現しています。この超音波検査で重要となるのが、頸動脈と心臓です。頸動脈エコー検査では、頸動脈の内中膜厚を計測し、この厚みや性状・形態から脳卒中や冠動脈疾患発症リスク予測、脳梗塞の病型予測を行います。これらに加え、血流波形を評価することで、頚動脈の閉塞診断、さらに頭蓋内の動脈閉塞の予測も可能です。また、胃カメラのように超音波プローブを経口的に挿入し、食道から心臓の構造を観察する経食道心エコー検査は、卵円孔開存による奇異性脳塞栓症の診断や、大動脈弓部の粥腫から生じる大動脈原性脳塞栓症などの診断に有用です。検査はSCU病棟の超音波検査室や超音波センターで、医師2人以上と看護師、日本超音波医学会認定超音波検査士(臨床検査技師)と協力しながら施行します。毎日、朝と夕方に患者さんの治療や検査方針のカンファレンスをするなど、私たちは、一人でも多くの患者さんが適切な検査、治療を受けられるよう、万全な体制でチーム医療を進めています。